

令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から 明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

- (1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。
- (2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1 調査日 令和8年4月14日（火）

2 調査対象 品川区立学校 第2～9学年の全児童・生徒

3 調査内容

教科に関する調査

→ 調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第2・3学年> 国語、算数

<第4～5学年> 国語、社会、算数、理科

<第6学年> 国語、社会、算数、理科、英語

<第7～9学年> 国語、社会、数学、理科、英語

品川区立清水台小学校

◆学校全体の結果分析◆

総合的には、目標値を上回ることができ、継続して取り組んできた国語科の指導の成果が表れた。「漢字を書く」ことや、話や情報を正しく理解し「文章を書く」ことに課題が見られる学年が多い。

■学年ごとの具体的な課題と原因

目標値を下回る内容は以下の通り。

学年	内容と出題のねらい	課題の原因として考えられること
2年	○かん字をよむ・かく 第1学年に配当されている漢字を正しく読んだり書いたりしている。 ○ことばの学しゅう 身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 ○せつめい文をよみとる 事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 ○文しょうをかく 伝えたいことを明確にしている。内容のまとまりが分かるように文章を書いている。	・1年時の漢字の学習が定着していないこと、語彙が少ないことにより、文章を正しく読み取ることができない。 ・文章を読むための語彙力が不足していることや、読むことへの抵抗感の強さにより、問題文を正しく理解できない。 ・決められた課題に合わせて文章を書くことに慣れていない。また、文章を書くこと自体に抵抗感をもっている児童が多い。
3年	○かん字を書く 第2学年に配当されている漢字を正しく書いている。 ○ものがたりを読み取る 場面の様子に着目し、登場人物の行動を具体的に想像している。 ○話を聞き取る 話し手が知らせたいことを落とさないように聞いている。 ○おれいの手紙を書く 語と語や文と文との続き方に注意しながら、文章を書いている。 ○文しょうを書く 伝えたいことを明確にし、内容のまとまりが分かるように文章を書いている。	・既習漢字が定着していない。日常から意識的に漢字を使うおとしていない。 ・物語の内容を捉えられていない。文章を読むことに慣れていない。 ・話を聞いていない。 ・語彙が少ない。日常から単語で話していることが多い。 ・伝えたいことの整理ができない。文章を書くことが苦手である。
4年	○漢字を読む・書く 第3学年に配当されている漢字を正しく読んだり書いたりしている。 ○文章を書く 書く内容の中心を明確にして、文章の構成を考えている。自分の考えを明確にして文章を書いている。	・既習漢字が定着していない。日常的に既習漢字を使う意識が低い。 ・相手を意識して、自分の考えを書こうとする意識が低い。 ・書く時に相手に伝わりやすい型を把握していない。
5年	○漢字を書く 第4学年に配当されている漢字を正しく書いている。 ○言葉の学習 連用修飾語や連体修飾語について理解している。 ○説明文の内ようを読み取る 叙述をもとに段落相互の関係を捉えている。 ○文章を書く 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして文章に書いている。自分の考えを明確にして文章を書いている。	・既習漢字が定着していない。文章を書くときに、習った漢字を使うおとしていない。 ・連用修飾語と連体修飾語の区別がついておらず、それらしい言葉を選んでしまっている。 ・説明文を読む際に、段落同士の関係が捉えられていない。 ・そもそも未回答が多い。書きたいことは書けるが、複数の「書く条件」に合わせて、文章を書くことに慣れていない。
6年	○漢字を書く 第5学年に配当されている漢字を正しく書いている。 ○言葉の学習 敬語について理解し、正しく使っている。	・既習漢字が定着していない。日常的に既習漢字を使う意識が低い。書き順等も正しく書けない。 ・敬語の使い分けを正しくできていない。使う相手を区別して使うおとする意識が低い。

■課題解決のための方策（取組指標）

2年	・語彙を増やすため、読書や読み聞かせの時間を確保すると共に、国語で扱う教材文を読む際の語彙の意味確認を丁寧に行う。 ・自分の考えを文章として表出することに慣れさせるため、簡単な文型を提示し、それに沿って文章を書く練習を授業と宿題で行う。振り返りを書く時間に、めあてに合った内容の選び方を毎時間練習し、テーマに合った文章を書く習慣づけをする。 ・文章を読むときには、分かっていることや聞かれていることなどを整理したり文章に印をつけたりしながら読むなどの技術を身につけさせる。
3年	・既習漢字の定着を図るために、繰り返し練習をする機会を設け、50問テストへの取り組みを通して漢字の定着を目指す。また、文章を書く時には、既習漢字を積極的に使い、表現することを習慣づけていく。 ・新しい言葉に着目し、必要に応じて辞書を活用することで、語句の意味を正しくとらえ、色々な表現を使えるようにする。 ・教科書の教材や本等の文章を読む時間を作り、読む時に着目する部分を伝えてから取り組ませ、考えることを明確にさせる。 ・1分間スピーチを紙に書いてから実施することで、伝えたいことを明確にした文章を書いていく習慣をつけていく。
4年	・既習漢字の定着を図るために漢字テストを定期的に行う。 ・文章を書く際に、既習漢字を使って書けるよう、漢字に変換させる習慣をつける。 ・自分の考えを整理し、読み手を意識して、文章を構成し、書く経験を積ませる。
5年	・漢字小テスト（10問）を定期的に行い、直しも確実にさせることで、既習の漢字の定着を図る。 ・授業の振り返りなどは習った漢字を使って文章を書かせるようにする。 ・いくつかの条件に合わせて、文章を書く経験を積ませる。
6年	・週に1回の漢字小テスト（10問）を行い、採点后に直しも行うことで、既習の漢字の定着を図る。 ・使う相手を意識し適切に敬語を用いるように書いたり話したりするよう指導し、日常生活においても意識して取り組ませる。

■次年度の数値目標

- ・全学年、教科全体の正答率で全国値を上回る。
- ・各学年、「漢字を書く」「文章を書く」の領域で目標値を上回る。

◆学校全体の結果分析◆

各学年の正答率は、全国値を上回ることができ、ICT機器の活用による視覚的に分かりやすい授業を行ってきたことの成果が表れた。また、児童がタブレット端末を活用する調べ学習等に取り組むことで、目標値を上回ることができたといえる。

■学年ごとの具体的な課題と原因

目標値を下回る内容は以下の通り。

学年	内容と出題のねらい	課題の原因として考えられること
4年	○工場の仕事 工場の仕事について、生産物の出荷に関する図を読み取っている。 ○店ではたらく人 買い物調べの方法を考えている。 ○安全なくらしー火事 火災発生時の連絡体制について、資料を読み取り、消防団や消防士の仕事について理解している。 ○安全なくらしー事故や事件 交通事故に関する警察の仕事について、資料を読みとり、交番の役割を理解している。	・表やグラフなどの資料から適切な情報を見付け出したり、そこから分かることを結論付けたりすることができない。 ・基礎的な知識が定着していない。
5年	○ごみのしゅりと利用 ごみの出し方のルールについて、資料を読み取っている。 ○先人の働き 七ヶ用水の活用方法について、複数の資料をもとに考え表現している。 ○特色ある地域の様子 伝統的な技術を生かした産業について、資料を読み取っている。 地域産業の発展に関する資料について考えている。	・資料から適切な情報を見付け出して読み取る力が不十分なため、複合した資料から結論を導き出すことが苦手である。
6年	○日本の水産業 日本の主な漁港と水揚げ量についての資料を読み取っている。 ○自然環境と国民生活 森林の働きについて資料をもとに判断している。	・グラフや資料から必要な情報を読み取る力が不十分である。

■課題解決のための方策（取組指標）

4年	・既習の基礎的な内容を関連する授業で確認する機会を定期的に設ける。 ・資料の見方をおさえる。グラフ、地図の読み取りから分かったことを自分の言葉で表現したり、日常の場面に結び付けたりする機会を毎時設定する。
5年	・資料の読み取りに関して、課題を明確にしたり、読み取る視点を明示したりすることによって資料活用力を伸ばす。
6年	・各単元で身に付けるべき知識を確実に身に付けられるように繰り返し知識の定着度を確認する機会を設ける。 ・グラフや資料を読み取る視点を明示し授業内で資料の読み取りの活用力を伸ばす。

■次年度の数値目標

- ・全学年、教科全体の正答率で全国値を上回る。
- ・各学年、課題が見られた領域で目標値を上回る。

◆学校全体の結果分析◆

どの学年も概ね目標値と全国正答率を上回ることができたが、観点別にみると正答率に大きな差が見られる学年があった。問題の内容や情報を正しく読み取ることに課題が見られ、情報を正しく活用して問題に答えることが苦手な学年が多く見られる。

■学年ごとの具体的な課題と原因

目標値を下回る内容は以下の通り。

学年	内容と出題のねらい	課題の原因として考えられること
2年	○120までのかず…集合数を理解している。 ○ひきざん…十何けた－1けた＝1けたの計算ができる。 ○かたち…面の形からそれが使われている立体を見付けることができる。使われている色板の数を数えることができる。 ○ながさ・かさ…形の異なる容器の水の量を、同じ大きさの容器に移して比較できる。 ○たしざん…示された加法の式から、適切な文章をつくっている。	・全体として、問題文を正しく読み取れず、何を聞かれているのかを正しく理解できていない。 ・集合数と順序数の違いを理解していない。 ・10と端数にわけてひき算をするなどの処理の仕方が身についていない。 ・形を多面的に捉えることができない。 ・目盛りを正しく読むことができない。 ・文章としてあらわす国語的な力がそもそも乏しい。
3年	○10000までの数・分数 4位数について、数の表し方を理解している。 ○たし算・ひき算 加法減法の結合法則を用いた式の計算の順序を理解している。 ○長さ・かさ 1L＝10dLであることを理解し、リットルますに入った水のかさを、LとdLで表すことができる。	・数の大きさを正しくとらえられていないため、数の大小の関係の把握ができていない。 ・特に文章問題では場面をイメージして結合法則や交換法則を使うことができていない。 ・長さやかさの単位が正確に理解できていないため単位換算ができない。
4年	○わり算 あまりのある除法の商とあまりを基に、あまりの処理をして、正しい答えを求めている。 ○□を使った式 □を使った文章問題（乗法の場合）を表した図の構造をとらえている。 ○円と球・三角形 二等辺三角形を作図することができる。	・かけ算が定着していない児童がおり、最後まで解くことができない。 ・□を使った文章問題では、問題のイメージが難しく、立式することが難しい。 ・用具の使い方が曖昧で、作図するための操作ができない。
5年	○分数 整数、真分数、仮分数、帯分数の大小比較をしている。 ○簡単な場合についての割合 2つの数量の関係を、もとの大きさの何倍になったかを考えて比べることができる。 ○面積 身近にあるもののおよその面積を推測することができる。 ○いろいろな図形 平行四辺形を作図ができる。 ○変わり方調べ 伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求めることができる。 ○折れ線グラフと表 2つの折れ線グラフを正しく読み取っている。	・真分数、仮分数、帯分数の意味や変換が正しく理解できていない。 ・問題のイメージができておらず、「もとの大きさに対して何倍」という考え方が理解できていない。 ・身近にあるものの面積や量感や面積の意味の理解と現実の量感とが結びついていない。 ・作図が身についていない。 ・伴って変わる2つの数量の関係をとらえることが不十分である。表や式を用いて変化や対応の特徴を考察することが苦手である。 ・目盛りの大きさや軸の関係を読み取ることができない。
6年	○分数と小数 小数を1／1000にした小数を求めることができる。 ○比例・単位量あたりの大きさ 速さの単位を理解し、時速を秒速や分速に直すことができる。	・小数の位の確認や1／1000の意味の理解が不十分である。 ・速さ、時間、距離の知識が不足していること、単位換算ができない。

■課題解決のための方策（取組指標）

2年	・図形の捉え方、かさの見方など基本的なものの見方を身に付けられるよう、生活経験を積むことのできる学習内容を設定する。 ・問題文を正しく読み取る方法として、式に必要な数や計算のしかたに関連する言葉に印をつけたり、どのように計算するかを説明したりすることで、正しく立式する技術を身に付ける。 ・たし算、ひき算の簡単な問題を朝学習や、授業開始3分程度を利用して繰り返し取り組みせ、計算能力向上を図る。
3年	・問題を図に表したり、式に□や（ ）を用いたりして、加法減法の関係を正しくとらえられるようにする。 ・数を10のまとまりとしてとらえたり、位ごとに整理したりすることで、数の仕組みを理解し、数についての感覚を養う。 ・長さやかさなどの単位量問題は、実際の量を見せたり、半具体物を使用したりして、視覚的に提示する。
4年	・プリント演習を行い、日々復習を繰り返し、かけ算・わり算の定着を図る。 ・文章題に必要な数に印を付けたり、図などに表したりすることで、計算の仕方を考えさせる。 ・作図のプリントを用いて、作図に必要な技術を身に付ける。
5年	・身近にある面積や図形を意識させ、辺や角、面積などに目が向くようにする。 ・図や式を読み取り、式に表せるように学習で取り組む。また、数値の変化をグラフで表せるように時間を取り指導していく。
6年	・機会があるごとに分数や小数の変換、小数の意味を学習し、理解できるようにする。

■次年度の数値目標

- ・全学年、教科全体の正答率で全国値を上回る。
- ・各学年、課題が見られた領域で目標値を上回る。

◆学校全体の結果分析◆

教科の正答率は、目標値に対して同等、もしくは若干上回っている。どの学年も例年より目標値に対しての正答率が下回っている項目が多い。問題の内容やグラフの情報などを正しく読み取り、それらを活用して考え、まとめることに課題がある。

■学年ごとの具体的な課題と原因

目標値を下回る内容は以下の通り。

学年	内容と出題のねらい	課題の原因として考えられること
4年	○太陽と地面のようす 影のでき方から、太陽の位置をつかむ。 ○音のせいしつ 音の大きさと物の震え方の関係について理解し、実験結果を推測する。 ○じしゃくのせいしつ 磁石の違う極同士は引き合い、同じ極同士は退け合うことを理解している。 ○物の重さ 同じ体積で種類の異なる物質の重さの大小を推測する。 物の重さは形を変えても変わらないことを理解している。 ○光のせいしつ 明るい部分は日光が集められていることを理解している。	・各単元における基礎的な知識の定着が十分ではない。 ・学習した内容をもとに、実験結果を類推して考えることが難しい。 ・問題文を正確に読み取る力、考えを表現する力に課題がある。
5年	○電気のはたらき プロペラの回る向きの違いが、乾電池の向きの違いによることを理解している。 ○月と星 方位磁針の使い方を身に付けている。 ○物の体積と温度 温度による金属の体積の変わり方について理解している。 ○水のすがた 水を熱したときの温度変化の様子を理解している。 沸騰したときに出てくる泡は、水蒸気であることを理解している。 水が凍る時の体積変化から、ペットボトルを凍らせることの危険性を推測できる。 ○自然の中の水 空気中の水蒸気が水になることを結露ということを理解している。	・基礎的な知識の定着が十分ではない。物や水の温度変化による体積変化や状態の変化についての理解ができていない。 ・実験の結果から分かることを基に推測して、理由を表現することが苦手である。
6年	○顕微鏡の使い方 顕微鏡の使い方を身に付けている。 ○ふりこのきまり 振り子の1往復する時間の違いが、ふりこの長さの変化によって生じたことを指摘できる。	・顕微鏡で使われる基本的な用語が定着していない。 ・ふりこの長さが往復する時間に影響を与えていることを理解していない。

■課題解決のための方策（取組指標）

4年	・既習事項の確認を毎時間行い、基本的な知識を繰り返しおさえ、定着を図る。 ・予想や結論を、根拠をもって書く時間を単元ごとに確保し、文章を読み取ったり、考えを表現したりする力の向上を図る。
5年	・学習内容を身の回りの事象と関連付けることで、実感を伴った学習内容の理解を図る。 ・用語の意味や事象などの基礎知識は、繰り返しの演習を通して確実な定着を図り、確認する機会を設ける。 ・実験の結果を基に予想や結論を考察する時間を確保し、考えを深め理解を促す。
6年	・各単元で身に付けるべき知識を確実に身に付けられるように、ワーク等を活用し、授業の始めや終わりで問題を解く。 ・小テストなどを定期的に行い、知識の定着度を確認する機会を設ける。 ・顕微鏡を使った実験を行い、基本的な用語を身に付けさせる。

■次年度の数値目標

- ・全学年、教科全体の正答率で全国値を上回る。
- ・各学年、課題が見られた領域で目標値を上回る。

◆学校全体の結果分析◆

全体としては目標値を上回ることができたが、「基礎」に比べ、「活用」の正答率が低かった。領域的には、「聞くこと」と「読むこと」のポイントが高く、「書くこと」のポイントが低い点が課題である。観点別では、バランスよく得点を得ることができていた。

■学年ごとの具体的な課題と原因

目標値を下回る内容は以下の通り。

学年	内容と出題のねらい	課題の原因として考えられること
6年	○アルファベットの書き（聞く） 音声聞き、活字体の小文字を正しく書いている。	・大文字は定着しているが、小文字に関しては定着度が低い。
	○英文の完成 地図を見ながら、目的地までの道順を正しく書いている。	・道を説明する際、右や左、真っ直ぐなど基本的な向きを表す英語を理解していない。 ・英語の語彙力が低い。

■課題解決のための方策（取組指標）

6年	・英語の単語を読んだり書いたりする学習を積み重ねていく。 ・メトロラーニングに取り組んだり、教科書に出てくる歌を歌ったりして、基本的な英単語を身に付けられるようにする。 ・各単元の終わりにはその単元で学習したことをもとに発表する機会を設け、英作文を書いたり、話したりできるように指導していく。
----	--

■次年度の数値目標

- ・全学年、教科全体の正答率で全国値を上回る。
- ・各学年、「活用」問題、「書くこと」の領域で目標値を上回る。